

2024 年 1 月 14 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒454 番（MK 姉）

『十字架にかかりたる』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 5:20~21 節（MM 姉）

『律法が入り込んで来たのは、罪が増し加わるためでありました。しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。こうして、罪が死によって支配していたように、恵みも義によって支配しつつ、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです。』

礼拝讃美歌⇒450 番

『いかに汚れたる』

礼拝讃美歌⇒402 番（旧 130 番）（HK 姉）

『父のみこころと』

《パン裂き》

聖書⇒エレミヤ書 31:31~33、34c 節（ES 姉）

『見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。』

わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。』

聖書⇒ルカによる福音書 22:14~15、19~20 節

『時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。

それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。』

(式)

礼拝讃美歌⇒401 番 (旧 286 番)

『主よいのちの御糧を』

《建徳》

聖書⇒ペトロの手紙二 3:9 節 (TM 兄)

『ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。』

聖書⇒ルカによる福音書 15:20~24 節

『そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけ、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。息子は言った。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』しかし、父親は僕たちに言った。『急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。』

聖書⇒ルカによる福音書 24:6、47a 節

『あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。

また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。』

礼拝讃美歌⇒209 番 (旧 300 番)

『いつかわ知らねど』

聖書⇒詩編 145:8~9 節 (ES 姉)

『主は恵みに富み、憐れみ深く／忍耐強く、慈しみに満ちておられます。
主はすべてのものに恵みを与え／造られたすべてのものを憐れんでくださいます。』

礼拝讃美歌⇒476 番 (旧 266 番)

『いかなる恵みぞ』

《建徳要旨》